

1963年でした。

この近畿圏整備法を作ったときに閣議は、我が国ではこれ以上地方ブロックを対象とした法律は作らないことを決定いたしました。その時点で、今申し上げた7つの地方ブロック、2つの大都市圏のどれにも属さない県が4つありました。長野県、静岡県、愛知県、岐阜県です。ここだけは白地で残ったのです。したがって、冒頭のご挨拶で大村局長が霞ヶ関が一生懸命議論したとおっしゃいましたけれども、この4つの県をどうするかは議論されてなかったと思います。

このことに大いに反論したのがその当時の愛知県知事の桑原幹根さんでした。一体この4県を国はどうしてくれようとしているのか、白地のままでいいのかという大論陣を張られました。4県の知事を集めて方策を練られて、国会議員とも相談され、さらに三重県、滋賀県、北陸3県も加えて9県の知事を集めて、自分たちで法律を作ろう、しかも地方の開発促進法ではなく、大都市圏の法律でいきたい。つまり、首都圏整備法、近畿圏整備法と肩を並べる中部圏整備法を作りたいと主張されました。

3年をかけて、共産党を除くすべての国会議員の賛同を得て議員立法でできたのが中部圏開発整備法です。ちょうど40年前でした。つまり、40年前に国は中部をどうしようなんていうことは考えていなかった。桑原さんはそのときにはっきり言っています。首都圏、近畿圏と並ぶ大都市圏法を作る。それまではおそらく名古屋を3大都市の一つに育てようという理念は一説にはなかったと思います。

私は、この伝統はその後引き継がれてきていると思います。

万博もしかりです。あるいは中部空港もそうです。ご存じのように中部空港は一昨年できまして、セントレアという名前と呼ばれ、国際社会への窓口になりました。この空港も第1種空港、つまり国際空港として認知さ



れてスタートしたのですけれども、日本では空港を作るのに空港整備法という法律があります。この法律は日本中の空港を3つのランクに分けています。1つは第1種空港。すなわち国際空港です。最初に空港整備法ができたときに、羽田だけがその対象でした。しかし、国際空港が羽田だけではやはり危ない、もう1つ空港がいる。関西ががんばられて、当時の伊丹が第1種空港に指定されました。日本では第1種空港、つまり国際空港は羽田と伊丹の2つだけでした。両方とも容量が一杯になったので、東京国際空港と成田空港を作りました。伊丹も狭くなったので、関西国際空港を作りました。一昨年までは東京と大阪にだけ第1種空港が置かれていたのです。

小牧にあります名古屋空港は、全国にある第2種空港、つまり地方主要空港の一つでした。名古屋は国の目から見ると“地方”の一つなのですね。東京は東京オリンピックがありました。大阪は大阪万博をやりました。大阪万博から35年経って、去年、やっと愛知で万博が開かれたわけです。

5分で40年間の歴史を語るのとは不可能に近いのですが、私はこれからの地方主体の国づくりを考えるとき、そのモデルは中部にある、中部を見習えといつも言っているわけです。今ようやく、国際化、あるいは日本の中での名古屋の位置づけが一人前になってきたと思います。これからどうするのかということについては、後半、もし時間をいただけたら続けたいと思います。今日は40年の大変記念すべきシンポジウムであるということも申し上げて、これを大事にしたいと思っています。以上です。

(2) 中部における地域づくりの将来展望

【小出氏】 ありがとうございます。中部というのは40年も前から、国が面倒を見てくれないものだから自分たちで作ってきたという歴史がある、当時中部地方だけ白地になっていたというお話は非常に印象的でした。

これまでの中部の歩みを伺いまして、ここからは今後の中部における地域づくりはどのように展望できるか、どのような方向を持っていくべきかについて、各パネリストの方々からご意見を伺ってみたいと思います。

初めに須田さんから、中部を中心とした広域的な交流連携に関してどのようなことが考えられるかということをご意見を伺いたいと思います。

【須田氏】 私は関西の人間です。京都の人間です。大学を卒業するまで私は京都から離れたことがございませんでした。東京にも行ったことがありませんでした。静岡以東へは行ったことがなかったのです。



名古屋には親戚がおりました。同時に友達もおりました。名古屋にだけは卒業するまでの間に何度もまいりました。そのときに、ここは東京なのではないかと錯覚したものです。なぜかという、関西とは言葉のアクセ

ントが違います。関西とは何となくムードが違う。東京というのはこんな所なのかと学生時代は思っていました。だいぶ違うのですけれど。

国鉄に就職いたしまして、今度は東京住まいになりました。私は地方勤務がほとんどなのですが、たまたま名古屋には2度勤務するチャンスがありました。今度は東京から名古屋にきたわけです。すると今度は、関西に帰ったような気になったのです。なぜかという、確かに言葉のアクセントは違うのですが、イントネーションにどこか関西的なところがあるのですね。それから、うどんの食べ方とかウナギの焼き方とかいろいろな面で関西に近い。

面白いものだと思います。逆の方向から来ると違って見えるのです。トルコにイスタンブールという都市があります。昔のコンスタンチノーブルです。私はほとんど外国に行ったことがありませんが、あそこは不思議に印象に残っています。あそこは、アジアの方から行きますとヨーロッパのように見えます。明らかにヨーロッパ風です。ところが、ヨーロッパからの帰りに寄りますと、

アジアに帰ったという感じがします。それと似たような印象を受けました。

すなわち、要するに中部もイスタンブールも文化の接点なのです。東西文化の接点です。その中から独自の文化が少しずつ作り出されているのだということが、3回目にここに20年定着してようやくわかりました。最初は関西から来て、東京の延長線に見えた。東京から来ると今度は関西の入口に見えた。ここに20年住んでみて初めて、ここには徳川宗春以来の独自の文化があることを感じつつある状況です。

これが中部の立地条件だと思うのです。東京の文化、関西の文化、この2つのものはこれからもあっていいと思います。その中で東西の特色を吸収して、中部の文化を作りつつあるところが非常に大きな意味を持つと思います。イスタンブールは世界的に有名な文化都市です。大変な古都です。世界を支配したこともある街です。それは東西の融合の中で独自の文化が開けたためにそういうことになったのだと思います。

これからの中部はそれを主張すべきだと思います。関西の文化、関東の文化のそれぞれの特色を生かしながら、それらが新幹線や道路で結び付けられて自立した圏域がつながっていく、まさにその中核にあるのが中部の文化ではないかと思っています。

そうなった場合、愛知県だけではやはり不十分で、岐阜県、三重県、静岡県と広域的に広がって一つの文化圏域にまとまっていった場合に、隣の圏域との調和が図られると思います。やや中途半端だと言う人もいるかもしれませんが、関西圏にも属し、関東圏にも属するこの地域は、その両者の橋渡しができるのです。最後は日本の国として一体にならなければならない。中京圏はそういった両文化の接点に立って、いい所を集めて独自の文化圏を形成し、それがさらに東と西の文化と一体になって大きな日本文化の中核になっていく。そういう可能性が、万博あたりから鮮明に出てきたような気がします。

そういう意味合いで中部が一つにまとまって独自の文化圏を作りながら、東西に接していく、また連携をしていく。少なくとも観光の面では私はそうしていきたいと思いますが、観光以外